

## 問題【国語】

問 次の文で使われている比喩の技法をそれぞれ、下のア～ウの中から選びましょう。

1. 空が泣いている。
2. 彼は風見鶏だ。
3. 彼女はガラスの心の持ち主だ。
4. 彼はライオンのように勇敢だ。
5. 光陰矢のごとし。
6. ささやくようなピアノの音色がする。

ア. 直喩(明喩) イ. 隠喩(暗喩) ウ. 擬人法

## 豆知識 雑学コラム

### 「似たもの」への例え

今回のテーマは比喩です。比喩とは、何かを説明するとき他の似たものに例えて表現することですね。難しい内容を伝えるときには、比喩表現を使うことで相手が理解しやすい文章になり、逆に難しい内容を読解するときには、比喩表現が理解するための助けになることもあります。また、比喩を使うことで、普通に表現すると長くなってしまうことを一言で表現できるといったメリットもあります。比喩の技法にはいろいろな種類がありますが、なじみがあるものは「直喩」「隠喩」「擬人法」の三つであると思います。

この三つの技法について、「直喩」は「～のようだ」など比喩を表す言葉を使って、ものや人を「直接」例える技法のです。比喩表現であることが「明らかに」わかる表現なので、「明喩」ということもあります。上の問題では「彼はライオンのように勇敢だ」や「光陰矢のごとし」「ささやくようなピアノの音色」が直喩になります。「ような」や「ごとし」以外にも「あたかも」「まるで」といった言葉も直喩で使う言葉になります。

次に、「隠喩」は「～のようだ」などの比喩を表す言葉を使わずに、ものや人を例える言い技法です。比喩の言葉がない(=隠れている)から「隠喩」と呼び、比喩であることが「暗示」されている表現ということで「暗喩」と呼ぶこともあります。上の問題では「空が泣く」や「彼は風見鶏」「ガラスの心」といった表現が「隠喩」になります。

最後に、「擬人法」は人以外のものを人のように例える技法のことです。「空が泣いている」の場合、泣くという人がする動作を使って例えているため「擬人法」であるということができ、また、比喩の言葉を使っていないことから「隠喩」ということもできます。したがって「空が泣いている」は「擬人法を使った隠喩」となります。

ところで、「彼は風見鶏だ」と聞いて、彼がどのような人なのか想像できましたか? 「風見鶏」とは、屋根の上などにあるニワトリの形をした風の方向を見るための器具です。風見鶏が常に風の方向に向くことから、周囲の状況を見て都合の良い方につく人の例えに使われています。もし、実際の風見鶏を見たことも聞いたこともない人がこの表現を聞いたとして、彼がどういう人か想像できるでしょうか?(いや、できないですよ)。こうした場合は、わざわざ比喩を使わずに「彼は相手の意見に流されやすい」という方が相手に理解されやすいですよ。比喩を使うときには、伝えたい相手にとってわかりやすい表現になっているか考えて使いこなしたいものですね。

## 【解答】

1. イ、ウ 2. イ 3. イ 4. ア 5. ア 6. ア、ウ